

新宿御苑で どんぐり拾い！

ニュース

みんなでつくろう！
しまやけべいせき
下宅部遺跡はっけんのもり

第76号【'07-10月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成19年10月9日

はっけんのもりの植物⑧

「どんぐり」

石橋 康夫

10月20日(土)の育てる会は、午前中に新宿御苑でどんぐり拾い&植物観察会を行い、午後は北区飛鳥山博物館・紙の博物館の見学を予定しています。

は、「縄文時代に牡蠣の養殖？」で話題になった中里貝塚の資料が展示されています。完全な形で発見された丸木舟は一見の価値があります。紙の博物館は自由見学

狙うどんぐりは「マテバシイ」(下段の記事参照)。大量に拾い集めて、その後の一年間の活動に備えます。まずは11月3日の文化財ウィーク「はっけんのもりへようこそ2007」の縄文食作りで使います。

としますが、4階の和紙の展示は是非ともお勧めします。

同時に、石橋会員の案内で植物観察会を行います。下宅部遺跡で出土しているけれど、はっけんのもりには植えられていない植物を観察してみまじょう。

日程は10月20日(土)、出発午前8時、東村山市民センター前集合、昼食は随園別館(北京料理)を予定、帰着予定午後5時。参加費700円(昼食費別)。

午後9時の飛鳥山博物館に

申し込みは17日(水)までに東村山ふるさと歴史館はっけんのもりを育てる会担当まで。

☎042(396)3800

「トングリ」という植物はない。広辞苑で(どんぐり)という項目見ると「カシヤクヌギ・ナラなどの果実の俗称。椀状の殻斗があり、果実の下を包む。」とある。このことは、「どんぐり」とはブナ科果実で殻斗があるものを言い、同じブナ科でも「クリ」などは含まず、勿論「トチ」の実なども含まない何種類かの果実のことらしい。「はっけんのもり」には「どんぐり」が成る木は四種類植えた。「マテバシイ」「スタジイ」「コナラ」「クヌギ」である。「マテバシイ」は今年も実が成っていて、写真の通り、成熟も間近である。しかし、あとの三種はまだ実が成ったことはない。



マテバシイ どんぐりが落ちるのは間近である

はっけんのもりを育てる会宿泊研修

山形県米沢市周辺

9月15・16日の二日間、育てる会として初めての宿泊研修を行いました。目的地は山形県米沢市周辺、片道7時間近いバスの旅となりましたが、参加者14名、有意義な時を過ごしました。

初日は米沢市「原始布・古代織参考館」「上杉博物館」他。二日目に高島町「つぎたむ風土記の丘考古資料館」、長井市「古代の丘資料館・縄文の森」と巡りました。

山形方面研修旅行

研修旅行の二日間の行程は晴天に恵まれ、山形の日射しは強烈でした。

一日目、七時に駅前から出発、全て順調、二十分程早く目的地米沢に到着。

古代織参考館を見学、見応えのある資料に接する事が出来ました。思いもしなかった糸を使った古い布(ぜんまい、葛、いらくさ)等、麻や紙は知っていましたが新しい発見でした。展示されている建物も良く保存されていて、古い布と共に感動しました。同時に上杉博物館で鷹山のビデオを見、収



原始布・古代織参考館

蔵品に歴史の重みを感じました。宿への道すがら日本穀倉地帯の素晴らしい景色を堪能しました。宿の食事の気配り、方言のなつかしさ、満足しました。二日目、高島町のつぎたむ(蝦夷の地名)風土記の丘考古館を見学、館長の説明を聞く、縄文前期の漆塗りの土器、木の破片、炭化食物(クッキーらしきもの)、特に細石器を貼ったヤリには新しい驚きでした。人類の深い知

恵を改めて認識しました。

最後に長井市古代の丘資料館そばの縄文そば屋で昼食、お目当ての屋外の巨大縄文土偶にお目に見掛かった。材料は合成樹脂、どうして完全な形で残っているのかという疑問が解けた。想像では人間の三倍位と思っていたが、実は二倍位、百聞は一見に如かずと実感、宿泊可能な復元竪穴住居を見学、広い敷地に点在する建物は縄文時代の風景を想わせる。丘に咲くすすきの穂、百八十度の展望に中秋の名月をここで見たらと心に描いた。

旅行に参加して良かった。人間の営みは衣食住を基本に永々と続いているのだと改めて感じました。更に同じ目的地で泊まりがけで皆と一緒に行動するする内に一層の近親感が生まれるのを感じました。旅行成功。(野口タカ)

宿泊研修

初めての宿泊研修に参加させていただきました。陽射しがつよく汗をかきながらの研修になりましたが、とても楽しい二日間でした。

米沢での最初の見学場所、原始布・古代織参考館では木綿以前の布(しな布・葛布・からむし布など)や紙を再利用した布、古くなって薄くなつてし



原始布・古代織参考館 館主の説明を聞く

まった布を利用するための刺し子など昔の人たちの知恵や技術にひたすら感じました。それに、糸を作つて布を編む・織る、という作業では糸を作るまでに九十の力がある、という説明がありました。育てる会でアングイン織りをやっていますが、まだまだ編む方も初心者。でもいつかは糸から作つてみたいと思います。(西山洋子)

「ぜんまい織」のじゅん

九月十五日「育てる会」の一員として米沢市の「原始・古代織参考館」に行った。外側の建物だけ立派で中身の



うきたむ風土記の丘考古館 館長の説明を聞く

ない何処かの博物館と違い、中身がギッシリという感じで、フクフクする思いであった。昔の人たちが考えた、生きて行くためのいろいろな繊維、そしてその利用のための「手だて」のいろいろ、そしてまた、「採集」から「栽培」へと移って行ったのである。歴史。古色蒼然たる手作りの織機たちの手ざわりと快い重量感、それは一つの感動であった。

特に私が「感動」を覚えたものに「ぜんまい織」があった。昔から山菜として「わらび」などとともに取った「ぜんまい」が被っていた「綿毛」に暖かい優雅さを感じ、この「綿毛」は何か

に使えないものかと思ひ、機会あるごとにこの「綿毛」を収集して来た。昔も私と同じことを考えた人たちがいて、綿花の繊維に編み込むことによりその利用を實行したのに感動したのである。この「ぜんまいの綿毛」は現代では「釣師」の手作り毛針の材料として使われている。個体により色の濃淡があるのが面白いのである。

(石橋康夫)

宿泊研修所感 古代道具の復元の課題

二日目に「うきたむ風土記の丘考古資料館」、「古代の丘資料館・縄文の森」を見学した。

①前者では、館長は親切、丁寧な説明をされた。展示内容も良かった。

考古の博物館で、出土品の単品展示に加えて、住居や道具の復元展示や鳥瞰図を見るのは古代を垣間見る思いで楽しい。関係者の努力には頭が下がるが、同時に復元の難しさを感じる。

ここでは槍、斧、矢の類の復元展示がある。槍は直接対象物(相手)を刺し、斧は直接打つ道具であるが、それ等の復元には、曲がった棒を柄として装着している。一方、矢や投げ槍等の飛び道具では、真直ぐな棒を装着している。



うきたむ風土記の丘考古資料館 復元住居の内部

理由は、柄は朽ちて出土していないが、飛び道具では方向性と飛距離の確保から真直ぐな棒の方が良いからという。即ち、先端の石製品は出土したので実物に基づくと復元、柄は出土していないので想像に基づくと復元である。住居も柱は出土していないが、出土(現存)する柱穴に真直ぐな柱を想像して復元している。

真直ぐな柄や柱は、力の伝達に最も効率が良い。曲がった杭は打ち難く、曲がった箸では摘み辛い等の道理である。加えて飛び道具では方向性等の確保のためにも真直ぐな柄が良い。極めて単純な理屈である。しかし、上記の

ように槍や斧等は、素朴感を示すためかもしれないが、曲がった柄を付けて復元している。

縄文人も食物の確保、自然その他との戦いに追われる中で、効率的な道具を考え、力の伝達に関する上記のような知識は、相応に持っていたと思う。鍬(ヤジリ)、錐先は左右対称の尖った直な物が、槌(の先端)も直な石等が出土している。直な物は力をその運動方向に集中し得る事を知っていた証拠である。その知識によれば、柄や柱は真直ぐな方が効率が良いと考え付いたのであろう。従って槍や斧の柄にも、直な素材を使ったと思う。

展示では、そのような力の伝達の知識を、矢や柱では肯定し、槍、斧では肯定していない。或いは、別の状況証拠があったのかもしれないが、復元の難しさを感じる。

②後者の縄文の森はかなり田舎に入った所であり、休日にも拘わらず見学者は疎らである。一部管理の行き届かない復元住居や広場もある。財政上の理由からかも知れないが、育てる会にとっても他山の石と思つ。

尚、今回の旅行は大変楽しかった事を付け加えます。(阿由葉著作)

研修旅行

東北、米沢市を中心とした遺跡研究。初めての一泊旅行研修である。趣味を同じくした仲間が、もろもろの期待をこめて、出かけました。

予想に反し良すぎる天気。傘と寒いのではと準備した長袖、アノラック、ジャンパは不要。車に積んだ飲料水のおいしかったこと。酒はのめるが、銘柄には無頓着な私。酒も趣味な世話人のお陰で三百km以上ある行程はあつとつ間に過ぎた。

最初の訪問先「原始布古代織参考館」毎月、定期的に学んできた「アンギン織」見慣れた道具と復元着衣。ここには木綿以前の原始布、古代織、民芸品が展示されていた。館主の説明も明快であった。

この近くの上杉城址に「上杉博物館」がある。上杉家ゆかりの国宝2点「上杉本洛中洛外図」「上杉家文書」、圧巻であった。

「上杉記念館」は上杉十四代藩主の邸宅。玄関、柱は総樺造り。柱などは木曾ヒノキ。純日本風の邸宅と浜離宮を模した庭園。見どころあり。

九百年前の八幡太郎義家の奥州征伐に遡る土地柄。出羽の名湯「赤湯温泉 丹泉ホテル」に一泊。



古代の丘資料館・縄文の森 巨大土偶の前で

翌日は「山形県立つきたむ風土記の丘考古資料館」※つきたむ（アイヌ語の湿地、広い谷地の意味。おきたま）山形県の遺跡と文化を集めている。数時間の滞在では見切れない。タイムカプセルになった泥炭層中の遺跡が多い。山形県下の旧石器から古墳時代までの資料を展示。国指定の漆器土器。縄文晩期の漆、東村山市の下宅部遺跡出土品との比較は面白い。

「古代の丘資料館」長井市。広大な敷地の一施設「そばの館」で昼食。腹いっぱい、好きな「そば」を食う、おいしい。縄文の竪穴住居と縄文キャンプ専用施設、バンガローなど

がある。小学校時代から体験しながら遺跡、文化に親しめる。グループで宿泊研修ができ、歴史教育も。コシはい考えた。おそばだけにしろ、飲食施設もそなえる。総合施設である。一箇所に集めてあるので、こんなの初めてで羨ましい。

ここにある土偶群像もアイディアである。普通30センチ以下の土偶を2メータ代に拡大してある。10体以上もある。自分より大きい土偶を立つたまま目線で観察できる。縄文の創作者の意図が伝わる。忠実に復元してあり、気づかない細部まで観察できる。東村山でも参考になるが、しかし金もかかる。

以上驚きため息の一泊旅行であった。帰りのバスは順調で、早く帰れました。
(高塚慎吉)

育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

正会員：会費年間1200円

通信会員：会費80円切手12枚

お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで

育てる会

今後の予定

10月13日(土) 午前8時から

除草・清掃作業、文化財ウィーク・リハーサル(はっけんのもり)

10月20日(土) 午前8時から

第66回育てる会「研修見学会」

(新宿御苑・北区飛鳥山博物館)

10月27日(土) 午前8時から

除草・清掃作業(はっけんのもり)

10月28日(日) 午後1時30分から

縄文土器部会・一般公募土器教室

(ふるさと歴史館)

10月30日(火) 午後1時30分から

縄文の布アンギン部会(ふるさと歴史館)

史館)

11月4日(日) 午後1時30分から

縄文土器部会(ふるさと歴史館)

11月6日(火) 午後1時30分から

縄文の布アンギン部会(ふるさと歴史館)

史館)

11月7日(水) 午後7時30分から

定例検討会議(ふるさと歴史館)

11月13日(火) 午後1時30分から

ニュース印刷発行(ふるさと歴史館)

11月17日(土) 午前9時から

第67回育てる会「縄文土器野焼き」

(はっけんのもり)